

福祉のこころはぐくみ新聞

福祉体験新聞(中学生・高校生編) **発行(福)** 沼津市社会福祉協議会



令和5年度
中高生ふれあい交流事業
令和6年
2月23日
(祝・金)
サンウェルぬまづ4F
多目的ホール

参加者 **35名**
(市内の中高生)

事前学習「障がいについて」

当日は沼津市手をつなぐ育成会代表の尾藤正弘さんのご挨拶から始まりました。「障がいのある人との生活は、特別なことではなく同じ人間として普通なこと。災害の時の対応も含めて、福祉の気持ちが少しでも中高生の中に芽生えてくれたら嬉しい」と、参加中高生に期待を寄せました。

NPO法人こころま代表の沼田潤さんの講話では、実際に自閉症である息子の晃太郎さんの特徴や、障がいのある方々との過ごし方などを知ることができました。沼田さんは、晃太郎さんの「好き」を伸ばしつつ、就労などの社会生活を支援するため、アートを通して、様々な面から障がいのある方々と社会をつなげる活動を行っています。



レクリエーション

緊張……でも、一瞬で縮まる心の距離

沼津市立あしたか学園の生徒さんや、こころのままのメンバーと中高生の初対面は、開放感のあるホールにて、自己紹介から始まりました。それぞれが緊張の面持ちで、小さめの声から始まった自己紹介でしたが、その後のレクリエーションで状況は一転。ボールを使ってリレーするゲームを始めると、みんな大きな声で自分たちのチームメンバーを応援していました。まさに、福祉の活動を通して、学校や年齢を超えて参加者全員が心ひとつになった瞬間でした。



コーヒーの香り漂う 午後のひと時

匂いに敏感な晃太郎さんがコーヒーに目覚めたのは、12歳の時。そこで、沼田さんはキッチンカーやイベントブースにて7年前より、カフェを出店しています。

午後の制作時間にコーヒーの振舞いがあり、丁寧かつ素早い晃太郎さんのコーヒーを立てる手捌きにみんな感動しました。ホールに差し込む午後の光と、みんなで笑いながらアートを作っている様子と、淹れたてのコーヒーの良い香りが、優しい時間を作り出していました。



一緒に作ろう

ワークショップ PART 1

みんなが触れ合うきっかけとして、こころのままのメンバーがチョコレートタルトのデコレーションワークショップを用意してくれました。調理室に移動し食後のデザート用に食のアートに挑戦しました。土台となるチョコレートタルトが届くと、「イエイイ」という声援が広がり、みんなで和気あいあいと作業することができました。



一緒に作ろう

ワークショップ PART 2

当日の最大の目的は、3月23日(土)に行われる「夢のふれあいフェスティバル」の会場装飾品として展示予定のアート作品の制作でした。桜の木、そして「夢」という文字を参加者全員で装飾していくうちに、会話も弾み、各所で楽しそうな笑い声が聞こえてきました。完成した3枚の超大作の前で最後に撮った記念写真の笑顔は、この1日を全員が楽しんで過ごしてくれたことの証です。



参加してよかった! の声続々!

元氣なボランティア部の男の子は、お友達を連れて参加してくれました。「自分にはない視点を教えてもらうことができた」「これからの生活の中で福祉について話していきたい」と話してくれました。また、小学校の先生を目指す女の子は「自分の将来のためにも、障がいや福祉について知っておきたいから参加した」「自分がこれまで思っているよりも、障がいのある方とのコミュニケーションをとることができて嬉しかった」とも話してくれました。



発行 社会福祉法人 **沼津市社会福祉協議会**

〒410-0032 沼津市日の出町1-15

サンウェルぬまづ(ぬまづ健康福祉プラザ)内

TEL. 055-922-1500

FAX. 055-922-1502

http://numazu-shakyo.jp info@numazu-shakyo.jp



沼津社協ホームページ



X(旧Twitter)



Instagram